

# 終末期がん患者の在宅療養を支える医療職に対する 口腔ケア教育プログラムの開発

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 由希子, 今崎, 智子, 上村, 美樹, 伊藤, 恵美 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://kobe-tokiwa.repo.nii.ac.jp/records/1134">https://kobe-tokiwa.repo.nii.ac.jp/records/1134</a>

2-T-12

## 終末期がん患者の在宅療養を支える医療職に対する 口腔ケア教育プログラムの開発

高橋由希子<sup>1)</sup>今崎智子<sup>2)</sup> 上村美樹<sup>3)</sup> 伊藤恵美<sup>4)</sup>

目的：がん患者に対する口腔保健管理の重要性は終末期も含めて高まっているが、歯学および歯科衛生教育のコアカリキュラムにはがん患者の口腔保健管理が含まれておらず、歯科医療者の多くは学習経験がない。そこで、在宅療養の看取りを踏まえた終末期がん患者の口腔保健管理の重要性に着目した教育プログラムを開発することとした。本研究では、今回作成した教育プログラム内容、およびこのプログラムを受講した対象者の意識について検討した。

方法：本研究では、終末期がん患者の口腔保健管理を担う歯科医療者に対する人材育成教育プログラムを開発し、研修会を開催した。研修前にアンケートを行い、受講者の意識やニーズについて検討した。

結果：研修の受講者は歯科医師、歯科衛生士で、口腔保健管理に対する意識は非常に高かった。口腔保健管理の難しさには、手技よりも患者の協力を得ることが難しいとの回答が多く、コミュニケーションを取ることや症例によって介入が困難であるとの意見もあった。

考察：本研究では終末期がん患者に対する専門的口腔保健管理ができる人材育成教育プログラムの開発とその受講者の意識について検討した。今後は、終末期がん患者を支援するため、専門的な口腔保健管理ができる人材を増やしていく必要がある。本研究で開発した教育プログラムを大学の卒後研修プログラムや現職者向けのフォローアップ研修でも使えるように、さらに内容を充実させていきたい。

---

1) 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科 2) 社会医療法人栄光会栄光病院  
3) 山口県済生会下関総合病院 4) 仙台青葉学院短期大学歯科衛生学科